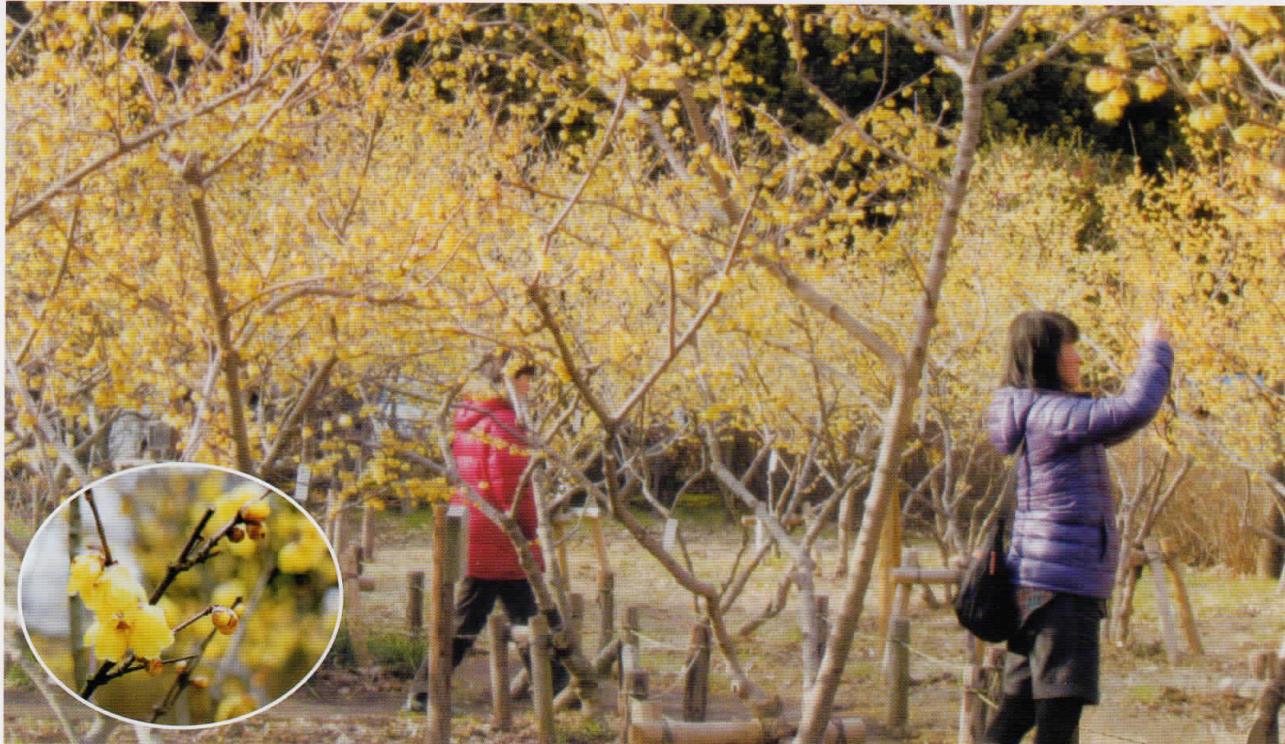


# 町田地区保護司会だより

第90号  
発行 町田地区保護司会  
会長 熊澤 洋  
編集 広 報 部  
TEL 042(707)7159



市内忠生公園の蠟梅



## 更生保護施設「鶴舞会」新築落成にあたり

更生保護法人鶴舞会 理事長 吉川 正男

町田地区保護司会の皆様方には、当法人の運営につき平素から種々ご援助を賜っておりますこと、心から感謝いたしております。

鶴舞会は、昭和41年の建築であり老朽化のうえに大変狭隘でありました。何とかしたいと思っておりましたところ、法務省において、平成21年を初年度とした第4次更生保護施設大規模整備事業5カ年計画を立て、慎重な審査の結果、全国で同計画の対象となった20施設の一員に加えていただきました。

更生保護施設は国家的事業である刑事政策の一翼を担っておりますので、その建築には、更生保護法人等から相応の助成等が受けられます。鶴舞会がそれをいただいたのは、更生保護法人更生保護事業振興財団、財団法人JKA、更生保護法人日本更生保護協会並びに更生保護法人立川更生保護財団からであります。また、東京都共同募金会

には備品購入につきご援助をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

新しい施設は、昨年12月に立派な姿に生まれ変わりましたが、これは善意のこもった資金と多くの方々のご尽力の賜物であります。

施設の対象者が刑余者等でありますので、どうしても近隣からは敬遠されてしまいます。しかしながら、施設がなかったら、どうなるでしょう？社会の中の不安はもっと広がることになると思います。施設で処遇を受けた者と受けなかった者の再犯率を比較した研究がありますが、前者の方が統計的有意差をもって低いと結論されています。

要するに更生保護施設は、社会にとって有益であり、また必要な存在なのです。このことを十分ご理解いただくとともに、処遇技術の更なる向上に鋭意努力したいと思っておりますので、保護司会の皆様方のご指導をお願い申し上げます。



成人の日を直撃した大雪がまだ街中に消え残った17日、ホテルザ・エルシーにて恒例の新春の集いが開催された。

第1部は中里総務部長が司会。小林副会長の開会のことばで始まった。熊澤会長の挨拶ではサポートセンター移転への思い、協力雇用主会実現の成果等が報告され、これから一丸となって問題の解決・実績づくりにまい進する旨の決意が語られた。

続いて24年度各章受彰者が紹介され、叙勲・法務大臣表彰の3人の方々には会より記念品が渡された。

ご来賓の古田立川支部長は犯罪対策閣僚会議における検討事項、保護観察対象者の居場所づくり出番づくり、保護司制度の基盤整備等について話され、また、2月末に落成式を迎える鶴舞会の今後について祝意と期待のことばを添えられた。

石阪町田市長からは日々目の前にある仕事に一生懸命、共に取り組んでいきましょうとご挨拶があった。

藤田町田市議会副議長、武智町田警察署長、渋谷町田市教育長、森久保多摩連会長の皆様からもご挨拶のことばをいただいた。他にご列席された

ご来賓の紹介が総務部長よりあり、第1部は終了した。

第2部は近藤総務副部長の司会で進められた。武井町田地区担当主任官、大貫町田市地域福祉部長、三澤南大沢警察署生活安全課長の方々から祝辞をいただいた後、おんとし92歳の桐友会西山氏の乾杯のご発声で開宴。

余興のカラオケに興じ、懇談の後、中村副会長が閉会のことばを述べ無事閉会となった。

(広報部 藤牧 素子)

### ★主なご来賓

古田東京保護観察所立川支部長

石阪町田市長

藤田町田市議会副議長

武智町田警察署長

渋谷町田市教育長

森久保多摩連会長

武井東京保護観察所立川支部町田地区担当主任官

大貫町田市地域福祉部長

三澤南大沢警察署生活安全課長

細野町田BBS会会长



## 町田分区社会参加活動



2月17日、青少年施設ひなた村で町田分区として初めての社会参加活動を実施した。

今回はひなた村の雑木林「童話の森」の枯れ枝の撤去作業で、対象者1名、保護観察所武井主任官、保護司15名、総勢17名が参加した。

午前10時より、平本分区長、熊澤会長の挨拶後、対象者の紹介と役割分担の説明があり、清掃班グループ、炊事班グループに分かれて活動を開始した。

快晴ではあったが空気はひんやりと冷たい中、それぞれ林の中に散っていた。

保護司の格好はさまざまであったが、対象者は、まさに植木職人のいでたちであった。事前に担当保護司から説明を聞いていたとは思ったが、実際に似合っていた。動きもキビキビしていて私達との会話もしっかりととした口調で対応していた。集められた枯れ枝はてっぺん広場で焼却して、できたで焼き芋を作り、昼食の一品になった。

今回の料理はすべて薪を使い調理したこと、いつもとひと味違う美味しさが感じられた。

主食はカレーライス。炊事班が心を込めて調理し、大鍋で作ったカレーは好評で、和氣あいあいと食事をした。

今回、参加対象者は1名であったが、全員の中にうまく解け合い、率先して活動していた。気温は寒かったけれど焚き火を囲み、身も心も温まり、分区員の結束力につながる活動ができた。その後活動に参加した感想のレポートを提出後、武井主任官より挨拶をいただき解散した。



(町田分区 村田 功)

## 忠生分区社会参加活動



対象者の社会性を育み、社会適応を促進する目的の社会参加活動を実施した。

昨年12月8日、午前10時より町田市忠生公園の外周道路の落葉清掃をした。当初予定していた5名の対象者が土曜日ということで2名の参加となってしまった。

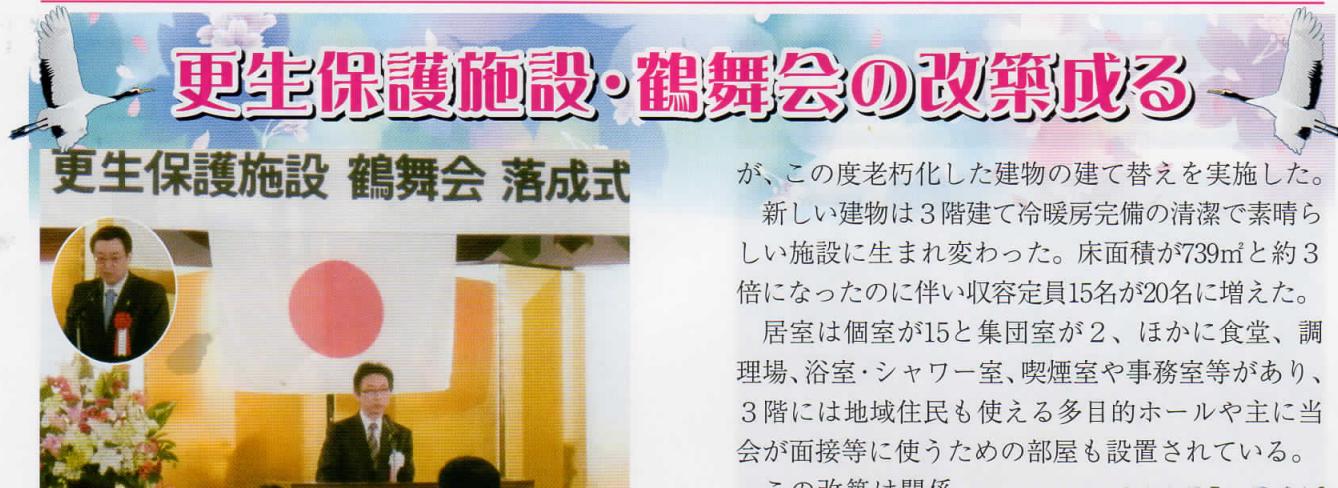
参加団体は東京保護観察所主任官・町田市役所・町田警察署・八王子少年センター・更生保護女性会・保護司会等で25名の参加があった。

小山分区長の開催挨拶で始まり、全員を5班に分け作業説明をしてから作業に入った。当日は快晴だが強風で、落ち葉を掃いても樹木に残っている枯葉が風で大量に舞って、何度も掃くことになった。また、バス通りを担当した班は多くの車に注意しながら清掃した。他の班は道路のU字溝に長年たまつた落葉を清掃するのに時間がかかり、大変であった。

作業後、昼食を公園内の施設で5班が作ったカレーライスを美味しくいただいた。この昼食は昨年対象者から好評で今年も好評を得た。食事の後全員の自己紹介と意見をいただいた。アンケートでは「いい汗をかき、コミュニケーションができた」「掃除をしてご苦労様と通行人に言われ、良いことをしたと思い、今後も続けてほしい。」「ほかに落書き落としもしたらどうか」と自分が役に立ったという実感から、社会性に富んだ意見が多く出された。この活動は対象者が主役であるから、次回は対象者が多く参加できる休日に実施したいと思った。

(忠生分区 原 雄三)





齊藤法務省保護局長

古川理事長 挨拶

市内鶴間の更生保護施設鶴舞会の全面改築が完了し、2月27日に建物披露と落成式が行われ当会など来賓関係者約90名が新施設の完成を祝った。

鶴舞会は、昭和34年に篤志家により設立された愛慈会が前身である。平成8年鶴舞会と名称変更し帰住先が無い出所者の保護などを行ってきた

が、この度老朽化した建物の建て替えを実施した。

新しい建物は3階建て冷暖房完備の清潔で素晴らしい施設に生まれ変わった。床面積が739m<sup>2</sup>と約3倍になったのに伴い収容定員15名が20名に増えた。

居室は個室が15と集団室が2、ほかに食堂、調理場、浴室・シャワー室、喫煙室や事務室等があり、3階には地域住民も使える多目的ホールや主に当会が面接等に使うための部屋も設置されている。

この改築は関係法人等の補助を受け多くの困難を乗り越えて実現したもので、これを機に鶴舞会における更生保護事業の更なる充実が期待される。（副会長 中村一幸）



## 多摩連保護司研修に参加して

### 「詩が開いた心の扉」

講師 寮 美千子氏

恒例の多摩連研修が立川支部で開催され、町田地区より各分区長と研修部員が参加した。

講師は絵本やドキュメンタリー、小説の作家寮美千子氏。明治41年竣工の煉瓦造りの壮麗な奈良少年刑務所に魅せられ、訪れた矯正展で出会った詩や絵に心を動かされる。情緒が耕されない荒れ地のままの心を潤す授業「社会涵養プログラム」への協力を依頼される。

SST・絵画・朗読詩作を月3回半年の授業を10人前後の受刑者に行う。氏は「全員が魔法のように変われるんです」と熱く語る。自己表現を受け止めてもらうと心が癒される。心を開くことで感情の心が出る。それがないと反省ができない。雲の気持ちになった言葉がタイトルの詩集『空が青いから白を選んだのです』を手に帰途についた。

(研修部 春山 幸子)



講師 寺 美千子氏

## 平成24年度多摩連受彰祝賀会



昨年12月7日立川グランドホテルに於いて、受彰祝賀会が開催された。今年度の立川支部管内の受彰者は叙勲7名・褒章3名・法務大臣表彰16名・全国保護司連盟会長表彰20名で、計46名であった。当日は受彰者36名とご来賓、多摩連理事等、総勢110名が集い、賑やかな会となった。

会に先立ち、受彰者と地区会長の記念撮影が行われ、正午に第一部が開宴。土屋総務部長の司会により会は進行し、森久保多摩連会長、久保東京保護観察所長の挨拶に続いて、出席受彰者36名が紹介された。ご来賓の宮川東京都保護司会連合会長、中野東京更生保護女性連盟会長からご祝辞をいただいた後、受彰者を代表して田中蓉子保護司(西多摩地区保護司会会长)が謝辞を述べた。

第二部は古田立川支部長のご発声による乾杯でスタート。今年は女性ボーカルグループ『ラメール』を招いて、心和む曲や心弾む曲を聴きながら、交流が続いた。

(多摩連事務局 小林 章子)

## 第2回準定例研修報告

1月25日、町田市教育センターにて第2回準定例研修を実施した。今回は「子どもたちと暮らして思うこと」と題し、自立援助ホームの三好洋子氏にご講演をいただいた。要約は以下の通り。

「憩いの家」は自立援助ホームと呼ばれる施設の先駆けである。全国に20数カ所、都内に8カ所ある。法的には児童福祉法で「児童自立生活援助事業」として位置づけられている。運営は「社会福祉法人青少年と共に歩む会」によって行われている。世田谷区内に3つのグループホーム（三宿、経堂、祖師谷の小さな一軒家）を持っている。年間予算はバザーや会費、寄付金等で賄われている。「私」の仕事は寮母で、スタッフは8人、それぞれの家に寮母が週5泊し、他の5人のスタッフが週4泊しながら3軒を回っている。一軒の家が男女6名の定員で個室である。目が届くという意味でこの人数が適正だと思われる。入所してくる子どもたちの8割が何らかのことで警察の厄介になっている。「憩いの家」には誰も引き受け手の無い15歳から20歳前後の子どもが入所してくる。保護者がいななかったり、養育不適格、入所できる



講師 三好洋子氏

施設がないという理由である。ここではなるべく規制を少なくして暮らしている。『門限は11時、働きに行くこと、働いた給料の中から生活費1ヶ月3万円を、子どもも大人も納める』ことくらいである。子どもたちには自分の考えで行動判断できるようにさせたい。30年近く寮母をし今は退職したが、週2晩非常勤として経堂と祖師谷に泊まっている。今後も子どもたちを見守っていきたい。】

ご苦労の多いお仕事と思われるが、子どもたちに寄せる強い使命感と愛情に感銘した。

(研修部長 井上 勉)

## 鶴川分区自主研修

1月21日草屋会議室にて熊澤会長も同席のもと、東京都医薬保健局薬務課・麻薬中毒者相談員としてご活躍の、忠生分区長小山典子氏を講師にお招きして、学校での取り組みについてうかがつた。薬物の怖さを事例を交えて説明があった。薬物乱用は心と身体をボロボロにするだけでなく、家族や友人を巻き込み、自分自身の大切な人生を台無しにしてしまう。「私は大丈夫」という安易な考え方は危険である。また、中毒患者が老人ホームに入っても追跡調査はほぼ一生行なうとお聞きし、改めて薬物担当の方々のご苦労に敬意を表したい。有意義な研修になった。

(鶴川分区長 中岡 秀子)



講師 小山典子氏

## サポートセンターこの一年

町田市役所新庁舎完成に伴い「更生保護サポートセンター町田」は仮事務所として町田市水道事務所2階に移転した。

6月27日暑い中、正副会長と駐在員が一致協力し引っ越しに汗を流した。以前は12m<sup>2</sup>と手狭な事務所であったが、仮事務所とは言え会議室と事務所合わせて約80m<sup>2</sup>と広さは申し分なく、日々の事務仕事や会議をするうえでは使いやすくなった。また、会議机や椅子等は熊澤会長と元副会長中里猪一氏から譲り受け、35名の理事会が自前の会議室で開けるようになった。

予定では今年度末に教育センターに移転することになっている。約60m<sup>2</sup>と学校の教室一室の広さになる。事務室と会議室を併設する予定で検討中である。

移転で明け暮れた一年となり、皆様方にはご迷惑をかけたり、格別のご支援をいただき感謝している。その間、駐在員を含めた相談員の研修や、厚木地区サポートセンターとの交流会等企画調整保護司の研鑽に努めてきた。

(サポートセンター長 中里 真二)

## ●退任保護司ご挨拶●



### 忠生分区 渋谷 敏穎

この度平成24年12月をもちまして定年退任しました。

平成4年に保護司の委嘱を受け20年間、さまざまな対象者との出会いがありました。と共に苦労もありましたが、社会に復帰された時の安堵感は忘れることができません。

皆様のご指導、ご支援で大過なく今日を迎えることができました。衷心よりお礼申し上げます。

今後はこの経験を生かし側面から地域社会に貢献をいたしたく思います。町田地区保護司会の益々のご発展と皆様の更なるご活躍とご健勝を祈念申し上げて退任の挨拶とさせていただきます。



### 堺分区 八木 邦治

八木邦治氏は平成4年12月に委嘱を受け、昨年12月に健康上の理由で辞職されました。20年間、町田市議会議員として激務をこなしながら、多くの少年たちを大らかな精神と深いふところで健やかな生活に戻れるよう指導してこられました。

(堺分区長 山崎 清子)



### 鶴川分区 大澤 克好

大澤克好氏は平成22年12月保護司を拝命。一般会社を経てのち警察官として34年間勤務されました。警察で培った経験を生かして保護司活動に力を注ぐつもりでしたが昨年体調を崩され、入院。退院後、ご本人の意思とは裏腹に活動が困難となり、12月をもって退任の決断をされました。

(鶴川分区長 中岡 秀子)

## ●編集後記●

今年は降雪日が多く、気温の低い日が続いて椿の花が黒ずんでしまいました。それでも春はここまで来ています、鶯がチッチと鳴いています。

仮住まいのサポートセンターからお届けする会報は今号が最後。次号は新しく移転するサポートセンターからとなります。(桐生)

## 守屋義昭君を偲ぶ

守屋君が平成24年12月11日に亡くなられたとのご訃報に接し、ただ、ただ、驚くばかりでした。

5月に一緒にゴルフを楽しんだ時はいつもと変わらないお姿でした。かつて分区でお花見をしたとき、守屋君が実行委員長で、彼の奥さんが軽トラにいっぱいバーベキュー用品を運んでいただき、みんなで楽しんだ思い出が忘れられません。守屋君とは同年で、言葉少ない人でしたが安心して何でも話せる人でした。慎んでお悔やみ申し上げます。 合掌 (忠生分区 原 雄三)

## 故露木 守氏に寄せて

1月15日、桐友会会員の露木守さんがご逝去されました。露木さんは昭和57年から平成16年まで保護司を務めてこられました。永年にわたり俳句に親しみ、数多くの句を残されました。

特に昭和59年天城湯ヶ島での句会で最優秀賞に輝き、湯ヶ島町に句碑が建てられています。

『吹き晴れて 天城湯ヶ島 鮎の秋』

ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌  
(会長 熊澤 洋)



湯ヶ島町にある句碑

## 平成25・26年度役員候補者推薦委員会答申を提出

委員会は、10名の委員で構成され、昨年の11月2日初会合を開き、熊澤会長より役員候補者の推薦について諮詢を受け、早速協議に入った。



まず役員候補者の選び方について各委員の意見を集約。数回にわたり慎重に協議を重ね、各候補者の了解を取り付け、期日までに候補者の推薦がまとまった。

1月17日熊澤会長に答申書を手渡した。  
(役員候補者推薦委員会委員長 松沢 明治)

### 平成23・24年度広報部員

担当副会長	小林 文子	(鶴川分区)
部長	藤牧 素子	(鶴川分区)
副部長	鬼頭 明成	(忠生分区)
	桐生 敏子	(堺 分区)
	橋田 恵子	(町田分区)
	八木 隆幸	(南 分区)